

ELSJ Newsletter No. 134 (2019年9月15日)

編集・発行所 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂1-2 研究社英語センタービル
 (Email: ejimu@elsj.org 電話/FAX: 03-5261-1922 ホームページ: <http://www.elsj.org>)
 一般財団法人 日本英文学会 代表者 原田 範行

会長挨拶

今夏は、全国的に梅雨明けが遅くなり、各地で豪雨などによる災害が発生しましたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。安定した研究教育活動を継続しておられることを心より願うばかりです。

さる5月25日(土)、26日(日)の両日、日本英文学会第91回大会が安田女子大学で開催され、28の研究発表と12のシンポジウム、さらには特別シンポジウムや懇親会、書店展示などが行われ、活発な研究交流と情報交換がなされました。また、大会前日の24日(金)には、中国四国支部企画として、前夜祭『真夏の夜の夢』鑑賞会も開催されました。大会の成功は、登壇者の方々が発表された優れた研究成果はもちろんのこと、開催校委員、そして大会準備委員、支部委員、そして事務局の方々の多大なご尽力によるものです。ここに改めて厚く御礼を申し上げます。来年2020年の全国大会は、5月16日(土)、17日(日)の両日、沖縄県の琉球大学で開催されます。沖縄県での大会開催は、学会創設以来初めてということになります。充実した研究交流が展開されますよう祈念致しますとともに、大会準備を進めておられるみなさまにはどうぞよろしくお願い申し上げます。大会出席のための交通の便宜や研究発表の奨励など、学会としても力を尽くす所存です。

2028年に日本英文学会は創立100周年を迎えます。英語のテキストと向き合い、これを読み解くことで人間の知性と感性を練磨するという研究の重要な基本姿勢にいささかの変更ありませんが、そのことをめぐる社会的情勢や手段の変化には、学会としても適切に対応していく必要があるかと思えます。英文学、米文学、英語学、英語教育を柱に広く文学・文化研究を包摂する本学会は、今、改めて、そうした研究教育の特質と意義を探究し、またその優れた価値を積極的に発信していくことが求められているように思えます。日本英文学会は、会員のみなさまの豊かな研究教育活動によっ

て生まれ、またそうした活動をしっかりと支える場であり続けたいと考えています。忌憚のないご意見やご要望なども、お寄せいただければ幸いです。みなさまのお力添えを、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

理事会および評議員会議事録から

安田女子大学での全国大会の前日(5月24日)に理事会および評議員会が開催されました。主要な議案は以下の通りです。

1. 2018年度事業報告
2. 2018年度編集委員会活動報告
3. 2018年度大会準備委員会活動報告
4. 2018年度決算報告
5. 2019年度予算確認
6. 2020年度大会開催校の決定
7. 2021年度大会開催支部の確認
8. その他

*なお上記、事業計画、予算、事業報告、決算報告は詳細を学会ホームページ「情報公開」欄でご覧いただけるようになっています。

- 「8. その他」中の主な議案は以下の通りです。
- (1) 2019年度就任の新理事について——以下の方々が就任されました。
 理事8名(任期2年)
 瀬名波栄潤(北海道)、大河内昌(東北)、原田範行(関東)、阿部公彦(関東)、内田恵(中部)、新野緑(関西)、吉中孝志(中国四国)、大橋浩(九州)
 - (2) 代表理事・会長の選出について——定款の定めるところに従い、新理事により代表理事・会長として原田範行理事(関東支部選出)が推挙され、了承されました。また、原田会長の指名により、大河内昌理事(東北支部選出)が副会長に就任いたしました。任期は2021年全国大会前日までの2年です。
 - (3) 『大会プロシーディングズ』のウェブ移行に

ついて——2019年度より、『大会プロシーディングズ』は、冊子体を廃止して、PDF版で提出された原稿を学会ホームページに掲載するウェブ版へと移行することが決定いたしました。

- (4) 海外研究者招聘後援事業について——今年度前半分(2019年4月1日申請締切)は国際学会“Modernism and Multiple Temporalities”からの申請があり、理事会での審議の上、規程にしたがい後援することが決定いたしました。なお「海外研究者招聘後援事業規程」は、学会ホームページ「情報公開」欄に掲載しております。
- (5) 『英文学研究』の論文掲載漏れについて——『英文学研究』英文号第60巻において掲載確定の論文が連絡事故により掲載漏れとなった問題が報告され、発生の経緯の検証と今後の対応策について、編集委員会とともに情報を共有しました。当該論文著者には、改めて心よりお詫びを申し上げます。
- (6) 支部内部留保の管理体制について——一般財団法人としての日本英文学会の財務状態を鑑み、支部の内部留保のこれ以上の増加を解消するため、各支部の年間支出平均額の2倍相当を超える貯蓄の管理を本部で行うこととなりました。この新しい体制は、2020年度予算より適用されます。

大会準備委員会からのお知らせ

◎委員の交代

本年7月1日をもって久野陽一、市川千恵子、栗山智成、下條恵子、三好暢博、寺西雅之の6氏が任期満了により退任しました。後任には、金山亮太(立命館大学)、米谷郁子(清泉女子大学)、中島渉(明治大学)、山本裕子(千葉大学)、菅野悟(東京理科大学)、深谷素子(鶴見大学)の6氏が選出されました(任期は各委員とも3年)。委員長は不破有理氏、副委員長は藤巻明氏です。

◎第91回大会の『大会Proceedings』発行

第78回大会から刊行がはじまった『大会Proceedings』ですが、今回から冊子体での発行を廃止し、ウェブ上でのみ公開する電子版(PDF版)へと無事移行いたしました。研究発表28件中11

件(39%)、シンポジウム発表48件中14件(29%)、特別シンポジウム発表4件中0件(0%)、総発表数80件中25件(31%)の論文をお寄せいただきました。なお、『大会Proceedings』に掲載される論文は、大会発表の長めの要約という性格のもので、それを大幅に加筆して、別稿として『英文学研究』に投稿もしくは日本英文学会新人賞に応募することは認められています。

また、『大会Proceedings』の電子版(PDF版)への移行に伴い『支部大会Proceedings』も、各支部ホームページで公開される電子版に移行いたしました。詳細は各支部の担当者にお問い合わせください。

◎第91回大会で発表された方へ

ご発表ありがとうございました。研究発表およびシンポジウムのいずれについても、参加者の方々から多くのご好評をいただきました。ハンドアウト等の資料が不足した部屋・部門においては、大会直後から、今からでもほしいという声が多数寄せられました。著作権等の問題がない場合には、今年度も学会ホームページにおいて掲載させていただきたく思っております。すでに送っていただいた方のは、掲載されております。これからでも掲載をご希望の発表者の方はぜひ事務局に原稿をお送りください。電子ファイル(etaikai@elsj.org)でも、ハードコピーでも結構です。どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

◎第92回大会の開催日・開催校等

時 2020年5月16日(土)、17日(日)

所 琉球大学(沖縄県中頭郡西原町)

開催校委員 石原昌英(委員長)、吉本靖、喜納育江、小林正臣、豊島麗子、長堂まどか

支部委員 大橋浩(九州大学・委員長)、高橋勤(九州大学)、鶴飼信光(九州大学)、中村浩一郎(名桜大学)、西原幹子(沖縄国際大学)

琉球大学の先生方には大変なお仕事をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また全国大会担当支部である九州支部の方々にも心より御礼申し上げます。大会準備委員会としても、できるかぎりのバックアップを心がけたいと思います

ので、どうぞよろしく申し上げます。

◎第92回大会のシンポジウム企画の内幕

第92回大会で行われるシンポジウムの企画が下記のように内定しました(敬称略。タイトルの変更の可能性あり)。第1～6部門は大会第1日(5月16日)、第7～12部門は第2日(同17日)にそれぞれ開催される予定です。

第1部門「The isle is full of noises——近世イングリッシュ文学とユートピア的「島」幻想」

司会・講師 北村 紗衣(武蔵大学准教授)
 講師 鈴木 雅恵(京都産業大学教授)
 講師 松田 幸子(高崎健康福祉大学准教授)
 講師 柴田 和宏(岐阜大学准教授)

第2部門「女性詩人たちの「声」を聴く——主体と修辞と社会と」(仮題)

司会・講師 大石 和欣(東京大学教授)
 講師 兼武 道子(中央大学教授)
 講師 廣野由美子(京都大学教授)
 講師 未定

第3部門「近代イギリスの文学とカネ——貨幣と信用が織りなす世界」

司会・講師 西山 徹(名城大学教授)
 講師 伊藤誠一郎(大月短期大学教授)
 講師 坂本優一郎(関西学院大学教授)
 講師 榎本 洋(愛知県立大学准教授)

第4部門「パラレルワールドとしてのアダプテーション」

司会・講師 鴨川 啓信(京都女子大学教授)
 講師 小川 公代(上智大学教授)
 講師 秦 邦生(青山学院大学准教授)
 講師 小畑 拓也(尾道市立大学准教授)

第5部門「The Search for Paradise: the Otherworld in Medieval European Imaginations」

司会・講師 大沼 由布(同志社大学准教授)
 講師 和田 葉子(関西大学教授)
 講師 辺見 葉子(慶應義塾大学教授)
 講師 Patrick Paul O'Neill
 (ノースカロライナ大学教授)

第6部門「空項(発音されない項)に関する諸問題」

司会・講師 島 越郎(東北大学教授)
 講師 縄田 裕幸(島根大学教授)
 講師 藏藤 健雄(立命館大学教授)
 講師 北田 伸一(東京理科大学講師)

第7部門「小説家と歴史」

司会・講師 後藤 和彦(東京大学教授)
 講師 佐々木 徹(京都大学教授)
 講師 藤井 光(同志社大学教授)
 講師 佐藤 泉(青山学院大学教授)

第8部門「米文学・愛文学と日本古典芸能の交錯」

司会・講師 真鍋 晶子(滋賀大学教授)
 講師 坂井 隆(福岡大学准教授)
 講師 佐藤 容子(東京農工大学名誉教授)

第9部門「fragileなアメリカ文学」

司会・講師 森 慎一郎(京都大学准教授)
 講師 高尾 直知(中央大学教授)
 講師 里内 克巳(大阪大学教授)
 講師 本岡亜沙子(広島経済大学准教授)

第10部門「More thoughts on (in)transitivity in the history of English and related issues (英語史における(自)他動性の更なる検討と課題)」

司会・講師 柴崎礼士郎(明治大学教授)
 講師 渡辺 拓人(関西学院大学助教)
 講師 Jerzy Norbert Nykiel
 (ベルゲン大学准教授)
 講師 大沢ふよう(法政大学教授)
 講師 小塚 良孝(愛知教育大学准教授)

第11部門「関連性理論の射程」

司会・講師 大津 隆広(九州大学教授)
 講師 内田 聖二(奈良大学教授)
 講師 東森 勲(大阪経済法科大学教授)
 講師 盛田 有貴(奈良女子大学助教)

第12部門「検定教科書を料理する」

司会・講師 浅野 享三(南山大学教授)
 講師 青谷 優子(朗読家・フリーアナウンサー・
 英語コミュニケーション講師)
 講師 倉林 秀男(杏林大学准教授)

◎第92回大会招待発表

第92回大会の招待発表講師は次の各氏に内定しました(敬称略。50音順)。

石塚 裕子(盛岡大学教授・神戸大学名誉教授)
 岩永 弘人(東京農業大学教授)
 遠藤不比人(成蹊大学教授)
 高橋 和子(明星大学教授)
 巽 孝之(慶應義塾大学教授)
 地村 彰之(岡山理科大学教授・広島大学名誉教授)
 寺澤 盾(東京大学教授)
 道家 英穂(専修大学教授)

◎第92回大会の特別シンポジウム企画

第92回大会特別シンポジウムには、理事会が責任主体となって「沖縄で考える英文学研究」(仮題)を企画しています。詳しくは、本ニューズレターの「事務局からのお願い・ご報告」をご覧ください。

◎第92回大会研究発表の募集

第92回全国大会の研究発表を募集しております。学会のホームページ(<http://www.elsj.org>)上でご確認のうえ、奮ってご応募ください。ウェブ上のフォーマットを利用して、ウェブから直接応募することが可能ですので、どうぞご利用ください。また、第92回大会は、沖縄県の琉球大学で開催されます。これを踏まえ、学生会員の研究発表を奨励するため、学生会員が研究発表を認められた場合には、一律2万円の交通費補助金を支給することとなりました。詳しくは、学会ホームページをご覧ください。応募の締切は11月1日(必着)です。

◎シンポジウムのアイデア募集について

シンポジウムのテーマに関する提言は随時受け付けておりますので、事務局(etaikai@elsj.org)までお寄せください。ただし、提案者はシンポジウムに登壇することはできませんのでご注意ください。寄せられたアイデアはデータベース化し、大会準備委員がシンポジウムを企画立案する際の参考資料として活用します。

◎大会ワークショップについて

第86回大会よりワークショップが導入されておりますが、第92回大会には応募がありません。

んでした。応募要領は学会ホームページ(<http://www.elsj.org>)に掲載しておりますので、奮ってご応募ください。第93回大会(2021年開催)ワークショップの応募締切は、2020年4月末日です。

編集委員会からのお知らせ

◎投稿状況

『英文学研究』は、和文号(12月刊行)、英文号(3月刊行)の年各一冊という刊行形態となっており、それに応じてそれぞれ投稿締切が設定されておりますが、昨年9月1日締切の英文号には16本の投稿論文が寄せられました。また、本年4月1日締切の和文号には14本の投稿論文が寄せられました。

◎第42回新人賞応募状況

第42回新人賞論文の応募受付は、去る4月30日をもって締切となりました。応募論文総数は、6篇(英文学1篇、米文学4篇、英語学1篇)です。応募者の皆様には心より感謝申し上げます。

今年度、第一次銓衡を通過したのは1篇(米文学)で、第二次銓衡において慎重な議論を重ねた結果、阿部幸大氏(ニューヨーク州立大学ビンガムトン校 比較文学科 博士課程)の“‘The Ad Hoc Adventure’: Pynchon’s Ecological Nationalism in *Gravity’s Rainbow*”が新人賞受賞となりました。受賞論文には賞金10万円が授与されます。

全体および各分野の選評は『英文学研究』和文号第96巻に掲載されます。

◎優秀論文賞について

この賞は『英文学研究』(和文号、英文号)に掲載される論文の中から、特に優れた論文に授与されるものです。『英文学研究』第96巻においては、残念ながら「該当論文なし」となりました。

◎投稿規程・新人賞応募規程の変更

会員の皆様に、充実した研究成果を論文として積極的に投稿・応募していただけますように、来年度投稿規程の変更を行います。主な変更は下記の3点です。これらは、通常論文の投稿規程と新人賞応募規程に等しく適用されます。

- (1) 現行では「過去に印刷に付されたもの、投稿の時点でほかに印刷される見込みのもの、もしくは審査中のもの」は投稿できないことと

なっていますが、出版・発表形態の多様化に鑑み、今後は印刷に限らず「過去に発表されたもの、投稿の時点でほかに発表される見込みのもの、もしくは審査中のもの」は投稿できないこととなります。ただし、口頭など発表形態によっては審査の対象となりえます。こうした場合には、必ず発表情報を明記してください。

- (2) 上記の変更に伴い、カバーレターにも口頭発表などの発表情報を明記していただくこととなります。
- (3) 現行では書式の細部は「*The MLA Handbook for Writers of Research Papers*などの標準的なスタイルマニュアルに従う」とされ、特に版の指定はありませんが、今後は「*The MLA Handbook*などの標準的なスタイルマニュアルの最新版」をご使用いただくこととなります。

詳細は本年12月刊行の和文号掲載の投稿規程でご確認ください。来年度以降投稿される方は、ご注意くださいますよう、よろしく願いいたします。

事務局からのお願い・ご報告

◎今年度の大会について

2019年5月25日(土)・26日(日)に安田女子大学にて開催された第91回全国大会は、当日会員を含む多くの方々にご来場いただきました。シンポジア、研究発表のいずれにおきましても活発な議論が展開されましたほか、特別シンポジウムでは、写真家の石内都氏にも講師として加わっていただき、多くの参加者に強い印象を残しました。おかげさまで、大会は盛会のうちに終了いたしました。シンポジア・研究発表・特別シンポジウム関係者の皆様、書籍展示に参加された協賛会員の皆様、大会運営を担われた教職員・学生の皆様、会の運営に力をお貸しくださった中国四国支部の皆様にも篤く御礼申し上げます。

◎来年度の大会について

すでに学会ホームページでもお知らせしておりますように、来年の第92回大会は2020年5月16日(土)・17日(日)の両日に、沖縄県の琉球大学において開催されることが決定いたしました。開

催校をお引き受けくださった琉球大学の皆様に心より御礼申し上げます。

例年通り、大会初日(5月16日[土])の夕刻には、会員の皆様にご参加いただく懇親会を予定しております。懇親会の予約方法につきましては、2020年3月刊行予定の『第92回大会資料』ならびに学会ホームページにて、あらためてお知らせいたします。

◎第92回大会における特別シンポジウムについて

第92回大会2日目(5月17日[日])の午後には、理事会企画の特別シンポジウムとして、「沖縄で考える英文学研究」(仮題)を予定しています。現代史の中の沖縄と英文学はもちろん、歴史的にもジャンルのにも、英語を軸とした沖縄の言語文化のあり方を多角的に考察しようとするシンポジウムです。登壇者については現在検討を進めており、詳細は来春発行の『第92回大会資料』および学会ホームページに掲載いたします。どうぞご期待ください。

◎全国大会期間中における託児所の開設について

開催校のご尽力により、来年度全国大会期間中には、託児業者に委託する形で大会会場内に託児所が開設される予定です。詳細や申し込み方法等は、追って学会ホームページ上で公開いたします。そちらをご覧ください。

◎会費納入と刊行物発送について

会費(一般会員8,000円、学生会員5,000円、協賛会員10,000円)を滞納しても、ただちに会員資格を失うことにはなりません。退会届が出されない限り、会費の納入が滞っても、2年間は引き続き刊行物をお送りいたします。『大会Proceedings』に2年度分の会費振込用紙が同封されている方々は、会費滞納が2年目になっています。今年度中に2年度分の会費の納入がなかった場合は、2020年3月末をもって会員資格を失うこととなります。資格を失ったのちも、未納分の会費については支払い義務があり、その分をお支払いいただかない限り再入会できませんので、ご注意ください。

会費の納入状況が不確かな場合には、メール(ejimu2@elsj.org)・電話・ファックスなどで、事務局までお問い合わせください。重複して会費を支払われますと、払い戻しなどに余分な手数料が

かかってしまいますのでご注意ください。

会費の納入忘れを避けるためにも、「郵便局自動払込みによる会費引き落とし」のご利用を強くお勧めしております。郵便局(ゆうちょ銀行)に口座をお持ちでしたら、事務局からお送りする書類に記入して、ご返送いただくだけで簡単に利用できます。領収書も、ご請求があれば学会より発行いたします。利用ご希望の方は、メール(ejimu2@elsj.org)・電話・ファックスなどで、事務局までご連絡ください。

なお、66歳以上の会員を対象とした終身会員制度を設けております。詳細につきましては、学会ホームページ掲載の「終身会員規程」をご覧ください。なるほか、事務局までメール(ejimu2@elsj.org)・電話・ファックスなどでお尋ねください。

◎会員著書案内について

2012年4月より、会員の皆様から事務局宛てにご著書を献本いただいた場合、学会ホームページに著書紹介を掲載できるようにいたしております。著書は会員独自の研究成果に限り、訳書等は対象外とさせていただきます。掲載期間は、出版から2年間です。また、著書案内に掲載された著書については、『英文学研究』編集委員会において書評対象の候補として検討させていただきます。

掲載をご希望の方は、以下の情報を事務局までメール(ejimu@elsj.org)で、WORDの添付ファイルにてお寄せください。

1. 著書のタイトル、出版社、出版年
2. 著書の内容の梗概1,200字程度
3. 目次

この会員著書案内欄には、2019年7月末の時点で22冊が紹介されております。ぜひご覧ください。

◎海外研究者招聘後援事業について

日本英文学会では、2011年6月1日より、日本における英文学研究の国際化促進のために、海外研究者招聘後援事業を実施しています。詳細は学会ホームページ上の当該規程をご覧ください。同規程に該当する企画をお持ちの団体による応募を歓迎いたします。どうぞふるってご応募くださいますようお願いいたします。応募する団体は申請書類を事務局宛てメール(ejimu@elsj.org)にてお送りください。

◎次回のNewsletterについて

次回のNewsletterは、2020年3月中旬刊行予定の『第92回大会資料』の巻末に掲載される予定です。それまでの間にお知らせすべき情報は、随時、学会ホームページに掲載いたしますので、定期的な確認をお願いいたします。

◎その他

本年5月末をもって、前任の佐藤和哉事務局長、深谷素子会計担当補佐、西原貴之大会準備担当書記、倉林秀男ウェブ管理者が退任されました。それぞれのご所属大学での研究教育業務が多忙を極めるにもかかわらず、英文学会の運営のために献身的にご尽力いただきました。また、膨大な業務と数々の困難に、非常に優れた判断力と粘り強さで対処してくださいました。あらためて心より御礼申し上げます。

この交代に先立って、4月より新たに、武田将明(事務局長補佐)、川崎明子(会計担当補佐)、吉村理一(大会準備担当書記)、小林広直(ウェブ管理者)の4名が事務局に入り、昨年度の事務局長補佐から事務局長に異動となりました岩田美喜、昨年度より引き続き編集担当書記を担当する張替涼子とともに、6名の体制で本年度の事務局運営に携わることになりました。任期は来年度の全国大会が終わる5月末までとなります。引き続き2名の有能な事務職員に支えられ、原田範行会長のもと、力を合わせて努めていきたいと考えております。至らぬ点多々あることかと懸念しておりますが、会員の皆様におかれましては、ご指導・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

日本英文学会事務局

岩田美喜・武田将明・川崎明子・張替涼子・
吉村理一・小林広直